平成23年度市政懇談会「市長のいきいきタウントーク」議事録(要約)

期日:平成23年10月28日(金)午後7時～

会場: 南河内公民館 大ホール

1

1) 財政状況(資料1)ということで説明がありましたが、家計簿にあわせて書いていただいています。

収入に銀行からの借り入れと、支出にローンの返済があります。

債権を発行して、債権を返すために同じような額を使っているわけですが、なぜこういうことをやらないといけないのか。ご説明ください。

2) 財政力指数や経常収支比率の説明がありましたが、県平均よりは「いい方」「いいレベル」だという話でした。わかりましたら、県のトップと2番目はどこか。下野市とどのように違うのか、分析されていると思いますが、説明していただきたい。我々も、栃木県の中での位置づけがわかっていいのかなと思います。

3) 実質公債費比率が下がっている。何をやって下がったのか。23年度には上がるとのことですが、なぜそうなるのか。市長の任期が切れたあとに上がってしまったら、次の市長さんは、やりにくいのではないかと思います。お答えいただけたらと思います。

4) 貸借対照表(民間会社の決算)をやりはじめたと思いますが、決算したら速やかに発表したらよいと思います。財産管理をいい加減にして、変な処理をされている地方自治体はたくさんある。最終的に負担するのは市民になるので、貸借対照表を近いうちに発表してください。

回答:総務部長

1) 家計簿にたとえてということで、収入を銀行からの借り入れ(市債・地方債)、支出がローン返済(公債費)の表現が、家計簿にたとえる方法で、適切な表現がないのでこのようにさせていただきました。

市債については、事業を行うにあたって、若干お金が不足しているので、銀行から事業費の相当分をまとめて借りる。例えば、1億円の事業をやるとき、手持ちに5000万しかない場合、残りの5000万を借ります、というのが収入の市債になります。

公債費というのは、旧町時代からいろんな事業で少しずつお金を借りてきました。それを分割して支払いをしています。いろんな事業の一年度に対する返済のお金のトータルが公債費です。

収入は、その年にやる事業の不足分をいったん借りる。毎年毎年、いろんなことをやっている。返済の積み重ねの合計が公債費です。

2) 経常収支比率の県内トップは宇都宮市です。

3) 合併当時は公債費(借金)が多かったので数値は高い比率でしたが、その後、自分の力で借り換えをしないで、自らのお金で繰り上げ返済をしたということでこのような数値になっています。

将来を見据えた場合、間もなく庁舎建設にはいりまして、これには合併特別債を有効活用したいので、当然ながら借入金も増える。償還も増加するので、若干、この数値は上がるであろうと見込んでいます。

実質公債比率が下がったというが、合併直後は市の負債(公債費)もあったので、高い数字を示していました。自分の貯金とか、毎月の収入を合わせた額に対する償還(公債費)の割合が17.4%から10.1%になったということです。他から借り入れしないで、自分のお金で繰り上げ返済している状態です。これが、18年から22年にあったものですから、徐々にこのように数字が下がってきています。

しかし、これから庁舎建設に向かおうとしています。これについては、合併特例債を活用する予定です。これには大目にみて50億という数字が想定されていますが、半分程度が借入をしないといけないので、償還が増え、比率も上がることになります。

4) 貸借対照表は、昨年まではすでに広報紙で公表しています。今年度も間もなく公表の予定です。

2

新庁舎建設にあたって、今までであった最低限の市民サービスは、身近に残してほしいというのが現実的な考えです。希望としては、これまでの市民サービスの窓口は、南河内庁舎があった時同様にお願したいです。

さらに、南河内庁舎の建物は、今後どうなる予定ですか？

今の段階で決まっていることがあれば聞かせてください。

回答: 総合政策部長

新庁舎建設に伴い、現在の庁舎は廃止されます。

新庁舎建設の計画ではどういう形になるかわからないが、窓口機能については、何らかの形で残していきたいと計画しています。今後、市民の皆様のご意見をいただきながら進めていきたいと考えております。

新庁舎建設後の3庁舎の利活用等については、後期の総合計画で取り組むことで検討を始めています。なるべく早く方向性を出したいと考えておりますが、まだ、具体的な計画は立っていません。

3

1) 今年の4月から自治会長をしています。何をやったらいいの、ほかの団体と自治会の連携、防災・防犯に対する会長の役割がよくわからない。また、会長は、臨時の特別職だということも初めて知りました。

そういったことは、だんだんに知っていけばいいことかもしれないが、実際は、自治会長の半数近くは任期が1年です。

最近、ハンドブックを作ってもらったのは非常によいと思う。

お願いとして、年度初めの4月に、自治会長の実質的な勉強会を設けてほしい。

研修旅行とかではなく、実際に会長の役割、臨時特別職として市としての教育(特に防犯に対して)を行って欲しいです。

2) 防災組織の設置について手引きをいただきました。自治会が主になって作りなさいということだと思いが、自治会長一人ではできないことではない。

毎年会長が変わるなら、教育なりなんなりをして、市政の理解を深めるとか、そういったことをぜひお願いしたい。

3) 防災訓練など、防災組織リーダー、会長に対して、小規模でもいいから市が主催となってやっていただけないでしょうか。

回答: 市民生活部長

1) 例年4月には自治会長の会議(説明会)を実施しています。今年も4月に開催して、質問に答えられなかったこともあり、震災もあったので、今年初めてハンドブックを作成しました。

今まではA4版で配付していたが、持ち運びができるようポケットサイズにしました。

2) 自主防災組織の手引きについては、震災を受けて、各自治会で組織を作ってもらえればと考え作成しました。年度途中のため、説明会の開催ができず、郵送させていただきました。

助け合いは身近なところからお願いしたいと考えています。今年の10月1日から施行したので、ハンドブックには載っていません。来年度に向けて、ハンドブックの充実を図りたいと考えております。来年度も4月には自治会長の会議を予定しています。

自治会によって詳細な説明が必要な場合は、生活安全課にご連絡いただければ、職員が出向いて説明することも併せてお知らせしていると思います。

要望があれば、今後は自治会長の集まりも検討したいと思います。

また、実務的な研修に関しては、要望があれば、今後検討していきたいと思います。

3) 防災訓練は毎年2月に開催していますが、平日のため市民の参加は少なかった。

3月の震災を受けて、来年の2月の訓練は、日曜日に実施を予定しています。できるだけ市民の皆さんに参加していただけるよう計画をしています。

新任会長の勉強会は、実施できるように連絡協議会とご相談して検討していきたいと思います。

4

下野市民は芸術に取り組んでいる人が多いが、市内では発表する場がない、ということで、新庁舎ができれば、市民課の窓口の一角でいいですから、壁面の一部を常設の市民のギャラリーにしてほしい。部屋を作るとまではいいませんが、壁面の一部を使って、ぜひ、そういう場所を作ってください。

回答:総合政策部長

新庁舎建設に向けてのワークショップなど、市民の方の意見を参考にしながら、今後、具体的にすすめていきたい。「作ってよかった」と思える庁舎にしたいと考えています。

5

1)本日の説明の下野市の財政状況についての件ですが、企業会計に例えるなら、損益計算書のみの報告だったかなと思います。平成18年から21年まででしたら、貸借対照表の数字もでていて、公開できると思いますので、次年度からのタウントークでは、当年の分はなくても、前年度までとあわせてご説明いただけたらと思います。

2)先の質問のギャラリーの件ですが、すでにグリーントウンコミュニティセンターで実施中です。

通路の壁面を利用して、コミュニティセンターで油絵を学んでいる方々が、自作の作品を一か月ごとに新しいものを展示しています。ぜひ一度見に来て参考にしてほしいと思います。

3)グリーントウン地区で、エコライフ祭りの実行委員長を数年間やっています。

今年は、教育長の素晴らしいリーダーシップのもと、南河内第二中の生徒がアルミ缶神輿で参加しました。

9月に反省会を企画したところ、生徒に自分の言葉で感想を書いてもらったら、「おみこしは重かったけど、最後までかっつけてやりがいがあった」「地域のボランティアの方がやさしく指導してくれてうれしかった」そのような感想が、生徒の8割から集まりました。8割近い生徒からの要望として「来年もこの活動を継続したい」の声がありました。

ご活躍いただいた校長が今年、退職の予定と聞きました。来年も実施できるようご配慮いただきたい。新しい方にもぜひお願いしたいと思っています。

回答:教育長

3)中学生にとって「地域の中で育つ」ことは必要なことです。なるべく地域活動に参加してもらいたいと考えています。

地域のみなさんのご協力、保護者のご理解が必要となります。現在、市内4つの中学校それぞれに地域の行事が持たれています。地域の行事に積極的に参加しながら、学力ももちろんですが、いろんな活動を通して自分を鍛える場にしてほしいと思います。今後とも、意思統一しながら進めたいと思います。よろしくお願いします。

6

自主防災組織について。

手引きを読んで、自治会によって世帯数の大小がある。それぞれによって、設置のしかたが違うと思います。

会長一人の考えでスタートできないので、皆さんどう思いますか、というような呼びかけから始まると思っています。

そんなふうなことで組織するという意見が一致した場合、災害(地震)が起きた時に、「近所の助け合い」を主として、自治会の中で老夫婦、独居宅、障がいのある人を把握して、連絡を取り合ったり手助けしたいが、もし、避難の場合は、勝手に自分たちで避難した場合、校庭に入れるのか、体育館に入れるのか、など具体的な話が進んでいません。

「わたしたちはこうしましょうね」と話し合うようなささやかな活動でいいのでしょうか。

回答: 市民生活部長

自主防災は、小さなひとことからスタートするものと思います。

自治会での近所の助け合いから始まるものと感じています。自治会の集まりなどで話を聞きたい場合、市の職員を派遣し、説明、意見交換などができます。

聞きたいことがある場合は遠慮なく言っていただければと思います。

7

デマンドバスについて。

1)生活安全課窓口へ申し込みとあるが、出かけていけないからバスを利用したいのに、出かけていけない人は、どうしたらよいのか。「登録手続き」とは何をするのですか。

自治会長や民生委員、市の職員を使うなどする予定はないのでしょうか。

2)乗り継ぎをすると200円がプラスになるのはなぜですか。

回答: 市民生活部長

1)デマンドバスの申し込みは事前登録が必要です。

申し込みは隣近所の人に頼むのもコミュニケーションのひとつだと思います。

市から自治会長に依頼する予定はないが、自治会長が代わりに行ってくれるのであれば、ぜひそうしていただき、助け合いをして欲しいと思います。

電話をいただければ、必要に応じて市の職員が訪問することも可能です。

2)将来は、新しい市の庁舎、自治医大病院、自治医大駅前のスーパーで乗り換えができるようになります。そこまでは、どこからいっても300円。それ以外のところは乗継料金がかかります。

ご要望があれば、老人会の集まりなどに職員が出向いてご説明に伺います。

8

1)自治会で自主防災組織を作ろうと、自治会内でヒアリングをした結果、賛成が半数以下でした。
なぜ必要かという、市民の認識が低く、必要性が認識されていない状況です。
市民への啓蒙を検討して欲しいです。

2)デマンドバスの運賃について

デマンドバスの運行の目的が、「交通弱者」救済ということであれば、市の財政が厳しいのも承知だが、無料パスを配付するなどの考えはないのか。

本当の「弱者を救う」という目的があれば、無料パスを配ってもいいと思います。

3)女性消防団員は何分団に所属しているのですか。

回答:市民生活部長

1)啓蒙を図る努力をしたいと考えております。

2)無料というのもひとつの方法とも思いますが、中には、「お金を払った方が気が楽でいい」という考えの方もあります。また、この運行形態は、平成22年度に、交通事業者、市民の代表者などによる、市の「公共交通会議」による協議の結果であります。

実際に運行開始して、状況を見直しながら、内容を検証し運営していきたいと考えています。

3)当面の間、所属は事務局付となります。市の事務局で活動しています。活動場所は下野市内全域となります。